

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 28 年 11 月 14 日 発行

第 26 号

発行人 校長 鈴木史良

現地校との交流を通して

—— クローバル人材育成の第一歩として ——

先週は各学年とも、現地校との交流活動をおこないました。

まず7日(月)の2・3校時に3, 4年生と5, 6年生がウスター市公園に隣接するピュント小学校を訪問しました。私も5, 6年生に同行しました。とても寒い日で、みぞれが降り出すほどでした。ピュント小学校に到着すると、ちょうど休み時間だったらしく、子どもたちが寒い中、緑のグラウンドで元気よく遊び回っていました。屋根に覆われた場所では十数人の子どもたちが、なんと「だるまさんがころんだ」遊びをしているではありませんか。オニ役の子どもが壁に向かって何やら言葉をつぶやく隙に、一斉にオニに近づきます。オニが振り返った時動いていたらアウトです。子どもたちの目は真剣そのもの。張りつめた空気の中できら

きら目を輝かせて遊ぶ子どもたち、子どもに国境はないなあと思わせてくれました。

ここで1校時にごみ処理場見学に行っていた3, 4年生たちと合流。休み時間終了のチャイムが鳴ると、子どもたちはさっとそれぞれの教室に戻りました。私たちも、それぞれ学年別の教室に案内されました。

9日(水)にはクレマーアッカ中学校の女生徒20数名が本校を訪問。体育館で体育の合同授業をおこないました。準備運動として、ラジオ体操第一の音楽を流しました。クレマーアッカ中の生徒たちは初めてにもかかわらず、前に立った本校中学部の生徒たちの演技を手本に興味津々、最後までやり遂げたのです。これには驚きました。また、10日(木)には、1, 2年生がピュント小学校に行ってきました。それぞれの学年とも目標やねらい通りのすばらしい交流ができました。

<子どもたちの感想>

●1, 2年生

☆ピュント校で楽しかったことは、みんなでダンスをおどったことです。あと、となりの子が「じょうず。」と言ってくれたのがうれしかったです。

☆チョコレートゲームが、とてもおいしくてたのしかったです。「ダンケ。」といってもらえてうれしかったです。

☆たのしかったことは、サイコロゲームとチョコレートゲームです。なぜかという、さいしょはつまんなかったけど、ゲームをやったのでたのしくなりました。

☆みんながやさしくしてくれてうれしかったし、となりのせきのこがにこってわらって、わたしもわら



元気よく交流 1, 2年生



算数は得意!? 3, 4年生

っていました。

☆みんなでうたをうたってたのしかったし、うたをずうっとうたってたら、わくわくしました。

●3, 4年生

☆わたしは算数のじゅぎょうで、長さをはかるのが楽しかったです。なぜ楽しかったかというとすぐに問題をとけたからです。体育もやりました。

体育で楽しかったことは「魚がサメに食べられる」というゲームをしたことです。ショックだったことは、ようち園で同じだった子の4人中1人が、わたしのことをわすれていました。

☆私は算数の時間に、長さをやったことが楽しかったです。なぜなら、日本なら2年生の問題をとくからです。アンジェリーナちゃんはとてもやさしかったです。わたしにトイレの場所をおしえてくれたし、鉛筆をどこにかえすかもおしえてくれました。また、ピュント校に行きたいです。

☆ピュント校で楽しかったことは、体育の時間に魚とサメのゲームをしたことです。なぜかという、ドイツ語がわからなくてもできるゲームだったからです。

●5, 6年生

☆ピュント校交流をしていいと思ったことは、みんな日本語に興味をもってくれたことです。あと、スイスの伝とう的なおかしを作って食べたこともうれしく、とてつもなくおいしかったです。家でもチャレンジしてみたいです。日本とスイスのよい交流ができました。

☆いいと思ったことは、いっしょに歌を歌っているときに、ピュント校の子がどこのページか教えてくれた。KさんやSさんが分からないことを通やくしてくれたのが、とても助かった。今回の交流でピュント校ともクラスメートとも協力できたから、とてもよい交流になったと思う。

☆ピュント校と交流していちばんうれしかったことは、みんなががんばって日本語を覚えてくれたことです。黒板に日本語を書いたら、いっしょうけんめい言ってくれたので、私もドイツ語を勉強して、みんなとしゃべられるようになりたいです。今後、また交流した時には、積極的にしゃべりたいです。

●中学生 ⇒ 代表して1名の感想紹介

☆最初はお互い緊張していたけれど、最後に距離が縮まったと思います。ラジオ体操など、楽しんでくれてよかったです。自己紹介では、ドイツ語の授業で勉強したように、「Wie Heisst du?」など聞かれて、わかったのがうれしかったです(笑)。相手が何を言っているかわからないし、自分たちの言っていることもわからないと思うけど、みんなで笑い合ったりしていたから、よく言われる「言葉の壁」があっても楽しめるんだなど、すごく感じました。クレマーアッカーの子も知っている日本語を話してくれてうれしかったです。もっともっと交流したいです。



菓子作りなら任せなさい 5, 6年生



華麗なるラジオ体操 中学部